がっちりスクラム くらしにゆとりを

私の正夢

七分会 平川道治

早いもので、誕生から数えて五回目の年男で、おんとし四十八歳。世間並みに言えば〝酸いも甘いも噛み分けた〟話のわかる良いオジサンなのでしょうが、私の場合はまだまだその域に到達できず、相変わらず〝キネ〟で、若い人達と小競り合いが絶えません。

さて、昨年は幸運にも小型船舶の免許を取得し、無理を承知で船まで購入しました。〇・三トン、十六尺の船体に十二馬力船外機。定員四人。船名『龍馬一世号』。

十二月十三日に船が到着するまで、幾日も眠れぬ夜が続きました。あそこはこうしたい。ここはこうした方が良い。係留はどこにしよう。無線器もほしい。皆んなも乗りたいだろうし、順番はどうしよう。魚が釣れたら福さんにも、早川さんにも、敏明ちゃんにも食べさせてやりたい。仕掛けは手作りで。渡り伝馬はどうしよう。などと思いは馳せるばかりです。

子供の頃、外国航路を股に掛けるマドロスが夢でした。入替採用で入社する時、炭鉱はいや——、俺は船乗りになる——。家出までして両親を困らせたことも甦ってきます。外国航路までは、とても行けそうにありませんが、せめて有明海のキャプテンとして若者達とともに釣り、大いに語らいたいと思っています。

いま一つ、大きな楽しみは「坂本龍馬を語る会」による四国旅行です。案外、龍馬のファンは多いものです。龍馬の大らかで、ユニークな人間性、物事にかける時の素晴しい情熱、私達の理想とするものを龍馬はたくさん持っています。

それいけ「竜馬一世号」

そんな龍馬をもっと知ろうと始めた「語る会」で、ビデオ見学、本の紹介と、少ない資料の中ではありますが進んでいます。桂浜の坂本龍馬像、室戸岬の中岡慎太郎像、さらに多くの資料収集など、今年は「語る会」も大きな収穫を得ることになるでしょう。

巷では、社公民など中間政党の自民党政治へのすり寄りを足場にした、反動攻勢が強まっています。全民労連の発足で労働組合は骨抜きにされ、あらゆる職場で無権利状態が強まっています。

私達の職場でも、作業範囲はおどろくほど拡大されています。いやなことも多い毎日ですが、そんなことに負けてはいられません。「元気印のトウチャン」です。今年も力いっぱい頑張るぞ。

登山を創造

一分会 吉野和記

干支が四巡して年男となった。『子の曰わく……四十にして惑わず、五十にして天命を知る…』が脳裏をかすめる。だが現実は「四十にして惑い、五十にして定年のちかさを知る」に近づいてきた。

干支は、十干十二支の略であり五行(木、火、土、金、水)の自然物であり、時日につける呼び名(私たちの身近にいる動物たち)によって構成されている。私たちの祖先が農業の祈願などとむすびついて、自然のサイクルを生活や人生のサイクルとしてとり入れたことと無関係ではない。

自然といえば、私は山が好きだからおおいに興味がある。「国敗れて山河あり」から四十数年、「国再び興って山河滅ぶ」自然、とくに森林は文明の母であった。

豊かな自然を背景に、水稲を中心とした日本の農業は、自然と人間が調和した「木の文化」を作り出し、人びとは自然の敏感さに対応した。

しかし、自然の豊かさのなかに文化を築いた日本人が、明治中期、自然は征服するものとするヨーロッパ文化の導入を契機として自然との関わりあいを放棄した時から事情は一変する。自然の生態系を無視した「便利さ、効率のよさ」だけが重視され、それは今も続いている。「日本列島改造計画」「第四次全総」しかり、私たちの生活の基盤を奪いながら「ふるさと論」もないだろう。

『文化の生きた魂』としての自然を守り、登山を創造していきたい。

「災害防止」を申し入れ

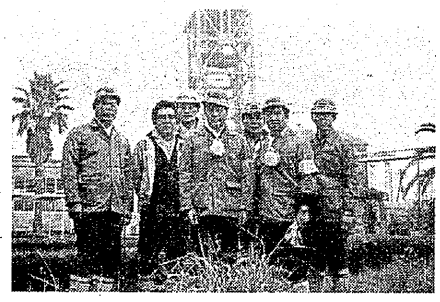
炭労保安調査団が入坑調査

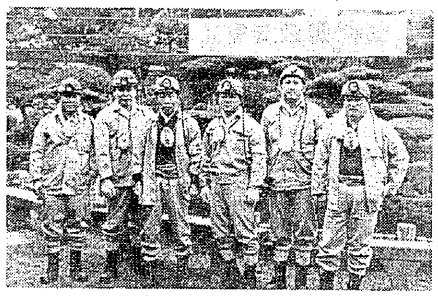
十二月十日炭労保安調査団が来山し、同日午後三池鉱業所から概要説明をうけ、十一日第一鉱三川鉱三川区域と港沖区域の入坑調査を実施しました。

三川区域には中村炭労副委員長、中川空地保安部長、西村炭労書記、さらに三池労組から中原組合長、松岡・杉本部長が同行しました。

港沖区域には広島南大夕張保安部長、北山幌内保安部長、さらに三池労組から田口書記長、森・芳川部長が同行しました。

調査団は点検・調査のあと総括会議をひらき、さらに鉱業所に対して申し入れのあとヒアリングをおこないました。





申し入れの大要

前文——略

1、過去の災害事例からしても坑内火災、自然発火対策を中心に重要・重大災害防止対策をさらに強化されたい。

2、高温対策については、かなり改善されてきているが、さらに対策を講じられ、作業環境の向上につとめられたい。

3、先般の合理化により、保安技術職員をはじめ、熟練鉱員などが大量に退職している状況にかんがみ、早急に教育などを強化して、人員の確保・質の向上をはかられたい。

4、第八次石炭政策によるきびしい状況により、三池炭鉱においては四山・三川の統合などさまざまな諸問題をかかえているが、労働者に不安を与えないよう諸対策を講じ、統合によっても早急に鉱区がコンパクト化することも考えられないので、保安要員などの確保、配置などについて万全を期されたい。

賃金10%繰延べ払い

会社、十二月から強行

三井石炭は、経理事情・資金繰りの悪化を理由に、昨年九月から実施した賃金一〇%の繰り延べ払いをふたたび提案、三池労組は容認できないとして反対しましたが、十二月分(一月十五日払い)から三カ月間強行となりました。

全般的な労働条件低下が深刻になっていることから、このまま繰り延べが強行されると生活への影響が大きいので、一〇%分は組合が立て替え払いいたします。

新春凡報

労戦展望

労戦〝暑いシーズン〟へ

官公労、左派結集など焦点

ことしの労働界は、労働戦線統一問題をめぐり〝暑いシーズン〟を迎えます。

そのポイントは、昨年秋に発足した全民労連(連合)を軸に、総評解体問題や官公労の再編統一、地方組織、政治戦線の再編問題などです。とりわけ「連合」結成と総評解体をめぐっては、統一労組懇や労研センターグループ(岩井前総評顧問などで構成)が反発し、左派の新たな階級的ナショナルセンターの確立を展望、ことしはその正念場の年に当たります。

結成された「連合」は民間六十四単産(約五百六十二万人)が結集した全国組織で、新結成により既存センターの同盟、中立労連が解散、さらに総評も二年後の解散を決め、戦後の労働四団体時代に幕が落とされます。

組織的な特徴は、争点とされた「統一基本構想」を堅持し、国際自由労連への一括加盟や選別的表現を残していることです。

これに対し統一労組懇などは「連合」を「産業報国会の現代版と翼賛政治化」ときびしく批判し、総評解体についても「連合への吸収合併」と反発、昨年発表した「階級的ナショナルセンターの骨格と展望」(案)を全国に広げ、労研センターグループや純中立単産など左派グループと共同して新たなナショナルセンター結成をめざし、ことしを大きなヤマとしています。

一方、官公労の再編統一問題は、「連合」が八九年の官民合わせた労働界全体の統一を提唱、「連合」と総評系官公労、同盟系全官公の〝ブリッジ会議〟も想定されています。しかし、総評の国公労連や日教組、自治労内部にはこれに強く反対する動きがあり、曲折は必死。「見切り発車はしない」(真柄総評事務局長)との方針を総評がどこまで堅持するかが焦点となっています。

さらに地方組織問題は、二年後の統一ローカルセンター結成の動きから、地区労を含む〝左右〟の対立を深めています。

「連合」結成と既存センターの解体という戦後労働運動の枠組み変化の中で、ナショナルセンターのあり方を問い、労働戦線は激動の時代を迎えます。

ニュース・コーナー

竹下人気に早くもかげり。ノボルのは地価ばかり、とあっては、国民の信頼得られず。

× × ×

ロン・ミハイルの〝蜜月〟にヤスのやきもち。負けてたまるか、と一月の訪欧・訪米。

× × ×

大韓機事件後、在日朝鮮人女生徒に右翼の暴力続発。理不尽を絵に描いたような排外主義。

× × ×

近づく一九八八年。末広がりの八の字のように、核軍縮の波が広がってほしいもの。